

神奈川大学工学研究執筆規程

2019年6月24日

1. 投稿資格

投稿筆頭者は原則として神奈川大学工学部所属教職員とする。ただし原稿を編集委員会が依頼する場合はこの限りではない。また連名者については制限しない。

2. 記事の種類, 刷り上り頁数

2-1. 巻頭言, 論説, 研究紹介

巻頭言：原則として1頁。

論説：学問・技術・工学研究所の事業・動向などに関する論説, 意見。原則として4頁程度。

新任者の研究紹介：前年度またはその年度に着任した工学部教員の専門分野や着任前の研究成果を簡潔に紹介した内容のもの。原則として10頁以内。

受賞研究の紹介：前年度に受賞対象となった研究概要の紹介。原則として5頁以内。

2-2. 論文, 研究報告

総合論文：著者の一連の研究をまとめたものであり、その分野における地位を明らかにした内容のもの。原則として20頁以内。和文の場合は〔欧文内容概要(1頁以内)〕、欧文の場合は〔和文内容概要(1頁以内)〕をつけることができる。

総説：総合論文と略同一性格の記事であるが、解説的色彩の強いもの。原則として8頁以内。

工学部特別予算重要機器整備費関連研究：工学部特別予算により導入された研究設備などを用いて実施された研究で、導入年度から2年間で得られた成果を要約したもの。原則として2~5頁。

私学助成関連研究：国や自治体からの私学助成金により導入された研究設備などを用いて実施された研究で、導入年度から2年間で得られた成果を要約したもの。原則として2~5頁。

工学研究所共同研究：前年度の研究成果が報告される。原則として共同研究A・B共に4~5頁。

工学研究所プロジェクト研究：前年度の研究成果が報告される。原則として2頁以内。

トピックス：その時々の特ピックスについての展望あるいは解説。原則として8頁以内。

2-3. 特集

その号の特集として特別記事を設けることがある。

2-4. 活動報告, その他の記事

工学研究所テクノサークル：テクノサークルの紹介およびその現状が報告される。原則として2頁以内。

随想：研究・開発などの思い出, 意見, 感想, 経験談など。原則として4頁程度。

国際交流研究：学外(国内, 国外)における研究・講義・出張に関する経験談など。原則として4頁程度。

工学部通信：前年度10月からその年度の9月末までの工学部各学科の研究活動, 講演会記録, および前年度の博士論文, 修士論文, 卒業論文を体系的にまとめたもの。頁数は任意。

工学研究所年次報告：前年度の工学研究所活動状況をまとめたもの。頁数は任意。

3. 用語

用語は和文とする。ただし総合論文に限り欧文でもよい。また〔英文目次〕作成のため, 原稿には〔英文題目〕のほか〔著者氏名〕および〔職名, 所属〕の英語名をつける。

4. 提出期日

その年度により定める。

5. 原稿の書き方

原稿の書き方は, この〔規程〕ならびに〔神奈川大学工学研究 執筆要領〕による。

6. 原稿の責任と権利

掲載された論文など（以下記事という）の内容についての責任は著者が負うものとする。また、著者は記事が神奈川大学学術機関リポジトリにてインターネット公開されることに同意する。

神奈川大学工学研究掲載記事の著作権・編集出版権（複製権、公衆送信権）は〔神奈川大学 工学研究所〕に属する。

7. 採否

原稿の採否および分類は〔神奈川大学工学研究 編集委員会〕において行う。

8. 原稿の提出先

原稿の提出先は〔神奈川大学 工学研究所 事務室〕とする。そこで受領した日を原稿受付日とする。

9. その他

（1）原稿の枚数が規定限度を超過する場合は委員会の承認を要するが、状況により超過分の実費と徴することがある。

（2）図が印刷に不適當な場合は、専門家に依嘱して書直すことがある。この場合の経費は著者負担とする。

「神奈川大学工学研究」原稿執筆要領

工学 太郎* 工学 花子**

Preparation of Manuscripts for “Technology Reports, Kanagawa University”

Taro KOUGAKU* Hanako KOUGAKU**

1. 緒言

この「神奈川大学工学研究」執筆要領は、このファイル自体が工学研究原稿のテンプレートになっているので、著者が別にタイプしてある原稿をこの用紙内にペーストすれば、以下に記載する体裁の原稿が作成される。

テンプレートファイルは工学研究所事務局から著者宛にメールにより送付する。

原稿は、テンプレート（A4判）に従って執筆し、提出の際は原稿のデジタルデータ（ファイル）を工学研究所事務局に提出する。ファイルはMS Word（Windows または Mac）またはTeX（PDF提出）とする。原稿記載の順序は、標題、本文、文献、付録、である。

2. 本文及び原稿の体裁全般

A4判用紙を用い、本文レイアウト（1ページあたりの文字数）は、30字×50行×2段=3000字とする。ただしタイトルのみは1段組である。

MS Wordの“ページの設定”の“文字数と行数”のタブ中の設定はフォントサイズ8、段数2で文字数30、行数50とし、“余白”のタブ中の設定は上29下22左13.7右13.7としてある。

和文字はMS明朝、英文字はTimes New Romanとする。ただし、記号などにSymbolを用いることが出来る。

本文、図、表及び式は原則として左右の段にまたがらないように書く。小数点は[.]を用い、カンマ[,]を用いない。句読点は[,] [.]または[,] [.]で統一する。注釈の使用はなるべく避ける。

3. 見出し

諸記号の字体は次のとおりとする。

(種別)	(字体)	(例)
数学的演算記号	立体	sin, sinh
単位記号	立体	cm, kg, MΩ
ベクトル量	斜体	速度 V , 力 F
量記号	斜体	周波数 f , 長さ l
化学記号	立体	H ₂ O, BaTiO ₂

*教授 機械工学科
Professor, Dept. of Mechanical Engineering
**助教 建築学科
Assistant Professor, Dept. of Architecture

文字の大きさは表1に示すとおりとする。

4. 図、写真及び表の作成

図、写真及び表は全てカラー表示が可能であるが、製本印刷はモノクロで統一し、PDF版のみカラー掲載とする。このため、カラー表示を希望する場合は、モノクロ印刷時に識別できるように留意する。

図、写真及び表が単段（片側）に収まらない場合は2段（両側）にまたがって書くことができる。

図、写真及び表の横に空白ができて、その空白部には本文を記入しない。

図、写真、表と本文及び図表相互の間は1行余白をとる。

図、写真、表の見出しは本文と同一言語とする。図及び写真の見出しはその下に、表の見出しは上に書く。

図、表中の記号類は、小さすぎて判別不能にならないようにする。また、複雑な記号類は、大きめに描くようにする。

写真は本文に貼るだけでなく、写真のファイルを添付する。

5. 数式

数式エディタを用いて記載する。

式は単列に書くように整形する。

字体はTimes New Romanを使う。ただし、Symbolは使用できる。

数式は原則として文章の行の中に入れていない。やむを得ず挿入する場合には、1行高さを守る。

例1 [分数式の例]

…これは $(a+b)/(c+d)$ の形を取る。

例2 [指数式の例]

…電流は $i = I \exp(-t/x)$ の形となる。

文中でなく、式を別行にする場合には、次のように書いても良い。

その結果、[上例の式]は次の形を取る。

例1 [分数式の例]

…その結果、これは次式の形を取る。

$$\frac{a+b}{c+d} \quad (1)$$

例2 [指数式の例]

…その結果、電流は次式の形となる。

$$i = Ie^{-t/x} \quad (2)$$

6. 文献記載方法

文中の文献引用は、引用箇所を文献ナンバーを上付きカッコでつける。

参考文献 (References) はナンバーに () や [] を付して本文末に列記する。

引用文献は原則として以下のように記載し、 Vol., No., pp.等は省く (Vol. 30, No. 5, pp. 177-182 ではなく 30 (5), 177-182)。また、太字、斜体を用いない。

著者名は原則として全員記述し、あまりに多い場合は「他」や「et al.」と略してもよい。また、[,] で列挙し、欧文著者の場合、最後のつなぎに「and」を加える。

例1 論文の場合

(和文誌)

[1] 松原茂樹, 加藤芳秀, 江川誠二, 英文作成支援ツールとしての用例会文検索システム ESCORT, 情報管理, 51 (4), 251-259 (2008).

(欧文誌)

[2] J. E. Lee, M. L. Fusco and A. J. Hessel, Structure of the Ebola virus glycoprotein bound to an antibody from a human survivor, Nature, 454 (7201), 177-182 (2008).

例2 プロシーディング (Proceedings) の場合

[3] C. Büttner, S. Weinzierl, M. Yabushita and Y. Yasuda, Acoustical characteristics of preserved wooden style Kabuki theaters in Japan, Proc. Forum Acusticum 2014, R03D_1 (Krakow, 2014. 9).

例3 書籍・著書の場合

[4] 坂村健, グローバルスタンダードと国家戦略 (日本の<現代>第9巻), NTT 出版 (2005).

[5] D. Frenkel and B. Smit, Understanding Molecular Simulation (2nd ed.), Academic Press (2002).

7. 原稿作成上のヒント

このテンプレートは Windows MS Word97-2003 文書で作成してある。著者が別に書いた原稿をコピーペーストすれば、自動的に割付が決定する。

Word からコピーペーストする際、書式情報無しテキストのみをペーストするには、対象の文字または一文をコピーした後にメニューの“ホームタブ”から“形式を選択して貼り付け…”を選択し、“テキスト”を選ぶ。

第1ページ標題部分は1段組である。この部分では、項目ごとにコピーペーストが必要である。

本文は著者原稿から図、表、脚注を除いてコピーし、テンプレートにペーストする。その後で、図等のスペースを作ってテキストボックスを挿入し、その中に図などをペースト、あるいはファイルからの挿入をする。

第1ページの脚注(著者所属など)には、直接入力しても、コピーした内容をペーストしても良い。

このテンプレートについて不明な点がある場合は、工学研究所事務局に問い合わせる。

8. 結言

校正は著者に依頼するので、校正刷りが到着後、速やかに校正を

済ませて、工学研究所事務局まで返送する。校正は内容が著者提出のハードコピーと一致することを確かめるものであって、軽微な修正点を除き、変更を加えることはできない。

著者の責任による修正が生じた場合には、その修正に必要な実費を徴収する。

表1 文字及びサイズ

題目	MS明朝	14 ポ
著者名	MS明朝	10 ポ
欧文題目	Times New Roman	12 ポ
欧文著者名	Times New Roman	9 ポ
本文	MS明朝	8 ポ
本文の各節・小項目	MSゴシック	8 ポ
図・表の見出し	MSゴシック	8 ポ
参考文献・脚注	MS明朝 Times New Roman	8 ポ

付録

[参 考] 神奈川大学工学研究の配布
刷り上がった神奈川大学工学研究は以下の各者に1部宛贈呈する.

- (1) 本学理事および工学部所属教職員.
- (2) 理, 工学部を有する国内の大学またはそれに準ずる学校.
- (3) 官公庁の研究機関.
- (4) 主要の学協会.
- (5) 民間の主要研究機関.
- (6) その他, 編集委員会が認めたもの.

[資 料] 英文用語一覧

Technology Reports, Kanagawa University	神奈川大学工学研究
Faculty of Engineering	工学部
Research Institute for Engineering	工学研究所
Department (Dept.) of	学 科
Mechanical Engineering	機械工学
Electrical and Electronic Information Engineering	電気電子情報工学
Material and Life Chemistry	物質生命化学
Information Systems Creation	情報システム創成学

Industrial Engineering and Management	経営工学
Architecture	建築学
Mathematics	数 学
Physics	物理学
Chemistry	化 学
Biology	生物学
Professor	教 授
Professor Emeritus	名誉教授
Associate Professor	准教授
Assistant Professor	助 教
Research Associate	助 手
Technical Assistant	技術員
Graduate (M.C.)	大学院 (博士前期課程)
Graduate (D.C.)	大学院 (博士後期課程)
Research Student	研究生
Dean	学部長
Chairman of Dept. of ...	学科主任
Abstract	概 要

注: 工学部, 准教授, 助手, 技術員, 研究生などについては種々の呼称があるが, 上記のように統一する.